

関連項目：検証改善プラン①、教育活動プラン②

安心して自分を表現できる

目的

本校の児童は全体的には素直でおとなしく、前向きな態度が見られる。ただ、状況によっては、相手にいやな思いを感じさせるような言動があるので、その都度解決しようとする学校の体制をつくる。

内容

● 質問紙調査による児童理解

1 目的

- ・ 児童とふれあい、児童の意見や考えにしっかりと耳を傾け、児童をより深く理解する。
- ・ 学級の全児童と教育相談を行うことで、わけへだてなく、どの児童も大切な学級の一員であることを伝え、自己肯定感を育てる。

2 日時

(1) 学級全員の教育相談：「先生あのね月間」

9月5日（月）～9月30日（金）朝の活動の時間

《9／1（木）2（金）の朝の会等を使って「先生あのね9月」の記入と「先生あのね月間」の説明》

9／5（月）学級の時間、8（木）読書タイム、12（月）学級の時間、

13（火）スキルタイム、15（木）読書タイム、26（月）学級の時間、

29（木）読書タイム

〔以上の時間を相談日とする。計7回〕

(2) 質問紙「先生あのね」は、毎月調査

- ・ 「先生あのね」の結果を実施後、(○)月分集計表に いじめA 登校B 暴力C 非行D けんかE 悪口F 無視G 仲間はずれH その他I」の分類を毎月10日までに入力
- ・ 問題が解決した場合は「済」と、継続して指導中の場合は「継」と記入
- ・ その他(I)は、その内容を簡潔に記入

3 内容

- ・ 「Q-U」や「先生あのね」等で気になることがある児童に対して、その内容に合わせた話題になるように工夫しながら、児童の気持ちを聞き取る。
- ・ 教育相談を通して、「先生は君の味方だよ。君のことを大切に思っているよ。」という気持ちを伝える。

4 その他

- ・ 話を聞く順番は、機械的に出席番号順・席順で行う場合などが考えられるが、学級の実態に合わせて順番を決め、知らせておく。
- ・ 教育相談を行っている間、他の児童が静かに活動できるように、教育相談担当、少人数担当、専科等が校内の巡視をする。
- ・ 相談の後、必要に応じて、学年団・管理職・生徒指導担当・教育相談担当、養護教諭・特別支援教育コーディネーター等に報告し、事後対応について相談していく。
決して担任一人で問題を抱え込まない。（報告・連絡・相談）

● Q-Uによる児童理解

1年間に2回実施する。学級や学年の傾向を分析したものを全教職員で共有（生徒指導全体会）し、今後の指導にいかす。

成果

学級担任が一人で悩まずに、「学校は、全校児童を全教職員で守り育てる」という共通認識のもと、問題が発生した時はチームで対応するという姿勢ができてきた。また、縦割り班の活動やソーシャルスキルトレーニングを通して、様々な経験を積むので、心身のたくましさが少し育ってきた。